

今、高校生が考える生成AIとの付き合い方 —「誤情報・偽情報」を超えた活用法を考える—

開催地： 大分

グループ：

2班

2024.7.27

外国（EU）の事例を 参照した法律提案

提案

EUを元にした、
AIに関する法律を
制定する。

AI利用によるメリット・デメリット

メリット:

- ・生産効率が上がる
- ・データの分析が可能 etc.

デメリット:

- ・偽情報・誤情報の拡散
- ・人間の仕事を奪う etc.

EUが実際に行っている法律

・情報がもたらすリスクを四段階に分け、段階別に法律を定める。

図表1: リスクベースでのAI分類

リスクの分類 (EUの規制案に基づく例)	
リスクレベル	リスクレベルの概要
1 許容できないリスク	<ul style="list-style-type: none">人の生命や基本的人権に対して、直接的に脅威をもたらすと考えられるAIシステム不利な扱いとされる社会的格付け、危険な行動を促す音声アシストなどが挙げられる
2 ハイリスク	<ul style="list-style-type: none">人の健康や安全、基本的人権、または社会的/経済的な利益に影響を与える可能性があるAIシステム製品のセーフティコンポーネント、雇用・労働者の管理、「警察や消防への緊急通報に関するAIシステム等」の必要となる公共・民間サービスなど
3 特定の透明性が 必要なリスク	<ul style="list-style-type: none">深刻なリスクはないが、透明性に関する特定の要件を満たす必要があるAIシステムコンテンツや応答が、対話型AIによって生成されたことを明らかにする要件などが挙げられる
4 最小リスク	<ul style="list-style-type: none">リスクがごくわずか、またはリスクの伴わないAIシステム

以上の事例の運用方法の考え方

法構成を行う

→実際の犯罪防止の取り組みを参照
(世界への視野の拡大、運用)

そのデータの判別、参照をAIに頼り、
人間がそれを判断、創造する

→AIとの分業、活用するAIへの接し方を生み出す

日本で定めるべき法律の提案

- ・その情報がもたらす危険度別に法規制をする。
 - ↳外交や政治など国に大きな影響を及ぼしたり憲法に関するものは危険度が高くなる。
- ・危険度が最も高いものは国が自主的に調べて認定を出す。
- ・個人が被害にあった場合は申告制にし、法規制に則って罰を与える。